REPORT

参考資料２

報告書

「新しい時代の万博」の具体化に向けて

経済産業省
大阪・関西万博具体化検討会
万博計画具体化検討ワーキンググループ
令和元年７月

INTRODUCTION

はじめに

我が国は、万博の誘致段階において、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマの下、ビッド・ドシエ（立候補申請文書）をBIE（博覧会国際事務局）加盟国に提示し、多くの国々の支持を得て、昨年11月に2025年万博の開催権を得ることができた。

本年1月、経済産業省は、ビッド・ドシエの内容を具体化すべく「大阪・関西万博具体化検討会」を開催し、同検討会は、有識者にヒアリングを実施しつつ主な論点について検討を行うことを目的に、本ワーキンググループ（以下「WG」という）を設置した。

本WGは、本年2月以来、8回にわたって開催され、その間、どのような万博を目指すべきか、幅広い分野の有識者と討議を重ねてきた。WGの会合に御参加いただいた55名、別途インタビューに応じていただいた76名の有識者の皆さまには改めて御礼申し上げる。

頂いた御意見は極めて多岐多様にわたっており、全ての論点について一致点を見いだすことは困難であるが、WGの議論を通じて、おおよその方向性について一致が見られた点について、『「新しい時代の万博」の具体化に向けて』という形でとりまとめを行った。私たちは、生き方や社会のあり方が急速に変化していく中で、すべての人々が、それぞれの価値観において「いのち輝く未来社会」を展望することのできる、深く心に記憶される万博を目指したいと考えている。

また、131名の御提言そのものが、大阪・関西万博の貴重な資産の一つとなるものであり、本報告書にそのまま掲載することとした。

今後、大阪・関西万博の開催準備の中で、本報告書の趣旨が十二分に活かされ、テーマ、コンセプト等のさらなる具体化が早急に進められていくことを強く期待する。

CONTENTS

第1部

「新しい時代の万博」の具体化に向けて

第2部

ワーキンググループ委員名簿及び委員の補足意見
～WGでの議論を経て～

第3部

有識者の意見

第4部

パブリックコメントに寄せられた意見

第1部

「新しい時代の万博」の具体化に向けて

SDGs達成+beyondに向けて

SUMMARY

「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマの下、SDGs達成＋beyondに向けた様々な取組を加速化することで国際社会に貢献する万博とすべき。
未来へ向かうエネルギーを生む万博とすべく、会期前から市民や企業を含む内外の多様なプレーヤーを巻き込み、会期後も自律的に発展していくうねりを起こしていくべき。

「いのち輝く」ために（SDGs+beyond）

LIFE

Point

▶SDGsに続く目標として、誰もがその人らしく生きられる「いのち輝く」社会のあり方のデザインを追求すべき。

▶万物に命が宿るという日本的な「いのち」の考え方のもとに、科学技術と共存し、様々な価値観を包摂する、日本らしい「いのち輝く」社会の姿を世界に発信すべき。

Example

▶様々な価値観に基づく「いのち輝く」のあり方を示すとともに、それを実現、促進するための方法論（評価、測定のあり方など）を提示する。

▶大阪・関西の強みである、ライフサイエンス分野の最先端の研究・技術（iPS、遠隔医療、遺伝子分析、医療ビッグデータ解析、予防医学等）が、どのように生活・まち・社会を変えるのか体験できる場を実現する。

SDGsと連動したコンテンツ

SDGs

Point

▶SDGs（『誰一人取り残さない』という考え方）の17の目標に連動したテーマ設定を行い、万博をSDGs達成に向けた様々な取組やソリューションを発信する場とすべき。

▶新しい時代をつくるコンテンツを集め、驚きや楽しさに満ちた体験の場とすべき。

Example

▶日本館を、国連と連携した「SDGs＋beyond館」とし、Society5.0のショーケースにする。

▶テーマ館については、SDGsの各個別目標と連動したテーマを設定。企画段階から民間の参画を募ることで、現実の課題解決に向けた取組との相乗効果を図る。

ライブな未来社会の「デザイン」と体験の場

Live Discussion

Point

▶多様な参加者の知恵、ノウハウ、技術が出会い、新しい価値やイノベーションが「デザイン」され、体験できる場とするべき。

▶パビリオン展示にとどまらず、SDGs達成＋beyondに向けた取組について世界各国の有識者や来場者などが議論を行う場を設け、その成果を発信すべき。

Example

▶テーマに即した国際会議や大小の議論の場を会期中に設ける。

▶世界中から参加できる議論の場であるOnline Platformを通じて、多様な参加者の意見を継続的に吸い上げる。

▶議論の成果を2030年SDGs達成＋beyondに向けた宣言「Expo2025 Osaka、Kansai Agenda（仮称）」として取りまとめ、世界に発信する。

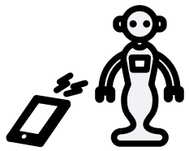
「未来社会の実験場」にふさわしい会場計画

SUMMARY

万博会場をSociety 5.0を体現した超スマート会場とするとともに、「未来社会の実験場」として、新たな技術、サービス及びシステムの実証、社会実装に向けたチャレンジを行っていくべき。
企画段階から民間企業などのアイディアを募るとともに、積極的な参画を求めていくべき。

Society 5.0 実現型会場の実現

Super Smart Venue



Point

▶AI、ビッグデータなどを活用し、待ち時間、言語の壁といった様々なストレスや制約から解放された、Society 5.0実現型会場(超スマート会場)とすべき。

▶「未来社会の実験場」として、革新的な技術、サービス及び社会システムが実証されるプロセスが示される会場とするべき。

Example

▶AIなどの活用により、人の流れを制御することで、入場、会場内の待ち時間ゼロを実現する。キャッシュレス、生体認証システム、世界中の人と会話できる多言語システムを実装する。

▶地震、台風を意識し、防災・減災技術を駆使したレジリエントな会場を整備するとともに、そのノウハウを世界に発信する。

▶ロボットと人間が心を通わせ共存する社会を示す。

▶最先端技術を活用しながら、そこでしか体験できないリアルな楽しさ・価値を提供する。

最先端のデジタル環境の整備と持続可能性の徹底的な実践

Digital × Sustainability

Point

▶Society 5.0実現型会場実現のための基盤となるデジタル環境整備の検討を進めるべき。

▶SDGs達成を掲げる万博にふさわしいよう、会場建設や運営など、あらゆる面で環境、持続可能性への配慮を徹底的に追求、実践すべき。

Example

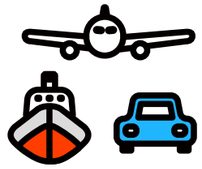
▶会場内における再エネ100%、水素利用、CO_2ゼロエミッションを実現する。

▶パビリオン自体、またその解体で発生する廃材の利活用を予め織り込んだ設計を行う。

▶会場が瀬戸内海を臨む立地であることを意識し、自然環境との調和に留意する。

会場外との一体性

Unique Experience Outside the Venue



Point

▶空港や主要駅から会場までストレスフリーかつシームレスな移動など、会場外でも万博体験を演出すべき。

Example

▶主要駅ー会場間の自動走行、空飛ぶクルマなどの次世代モビリティを実装する。

▶水都・大阪にふさわしい、会場⇔空港、会場⇔大阪・関西の水上輸送を活用する。

▶会場と連動したイベントや街の装飾など、会場外も含めた一貫性のある体験をデザインする。

日本の飛躍の契機に

SUMMARY

新たな文化創造、文化交流の場を実現すべく、万博を契機として、世界の多様な文化、価値観が交流しあい、新たなつながり、創造が促進されるべき。
経済、社会、文化などあらゆる面において、大阪・関西のみならず、日本全体にとってさらなる飛躍の契機にすべく、万博の機会を最大限に生かすべき。

Society 5.0の実現へ

Society 5.0

Point

▶万博を通じたSDGs達成に向けた様々な取組を通じて、「課題解決先進国」としての日本の姿（=Society 5.0）をデザインし、その実現に向けた成長戦略を一層加速させるべき。

Example

▶SDGs達成のための解決策を提示できる、スタートアップをはじめとする民間企業、研究機関などによる最先端技術のショーケースにする。

▶医療産業都市である関西地域の大学など学術機関と連携し、その強みを生かした解決策を提示する。

▶民間企業や大学からの提案の公募やコンソーシアムの立ち上げ。

▶中小企業やベンチャー企業など多様な主体が新たなチャンスをつかみ、世界に飛躍するよう、参加、発信の機会を確保。

インバウンド観光をさらなる高みへ

Inbound

Point

▶万博を、文化、歴史なども含め、日本の魅力を再発見する機会と捉え、「観光大国」を目指して、より付加価値の高い観光の実現を推進していくべき。

Example

▶関西をゲートウェイとして日本全国の観光地や食などの魅力を外国人に発信し訪問を促す機会（夢洲を起点とした、日本の文化・歴史の周遊パッケージ、瀬戸内海の船旅など）とするとともに、様々な交通事業者の交通情報を一元的に提供するMaaSを構築する。

▶大阪・関西地域の強みを生かした新たな魅力を創出、発信する（健康、ウェルネスを軸としたツーリズム、VRと伝統文化の融合による新たなコンテンツ創出など）。

▶多言語対応、ボランティア、民泊の活用を含めた宿泊施設の整備など、外国訪問客受入れ環境を整備する。

会場外の様々なイベント・取組との積極的なつながり

Associated Events

Point

▶「参加型」の万博として、関西そして日本全国の自治体や民間企業など、様々な主体による自主的取組を促すべき。

Example

▶意欲ある自治体や団体などの万博に向けた自主的取組を、関連プロジェクトとして「認定」する。

▶関西地域の強みとなっているライフサンエンス分野などの大学及び研究機関と万博とをネットワーク化する。

▶1970年日本万国博覧会の会場跡地でのイベントと連携し、1970年と2025年の比較展示を行う。

多様な参加者による共創プロセス

SUMMARY

今後、具体的に準備を進めていくに当たっては、多様なバックグラウンドを持つ人から広く知恵を集めつつ、準備段階から多様な主体による共創（Co-creation）を実現していくべき。

参加国及び来場者と共に創る万博に

Co-creation

Point

▶出展者、来場者といった既成概念にとらわれず、世界中80億人がアイデアを交換し、参加国と来場者が「共に創る」（Co-create）万博とすべき。

▶開催地域となる大阪・関西地域が一体感をもって創り上げる万博とすべき。

Example

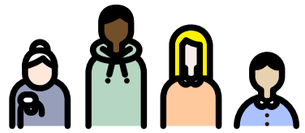
▶テーマ館の企画との連携など、世界中の人々及び国々が参加・共創するプラットフォームとして、Online Platformを活用する。

▶各参加国の考え方を尊重し、特に、開発途上国に対しては、きめ細かなサポートを実施し、共に創るプロセスを重視する。

▶大学や70年万博のレガシーである国立民族学博物館をはじめ学術機関や国際機関などが持つ国際ネットワークを活用する。

多様性のある推進体制の構築

Diversity



Point

▶様々なアイデアを取り入れることができるよう、年齢、性別、国籍など様々な観点からダイバーシティのある推進体制を構築すべき。

Example

▶未来社会を担う次世代の才能の飛躍の機会とすべく、次世代を担う才能を積極的に発掘するとともに、挑戦する機会を確保する。

▶文化、科学、芸術、建築など様々な分野で世界的に活躍する優れた有識者とのネットワークを構築する。

万博計画具体化検討ワーキンググループ
委員名簿

（五十音順、敬称略）

石川　善樹	株式会社ハビテック	15
齋藤　精一	株式会社ライゾマティクス	17
佐野　真由子	京都大学	19
澤田　裕二	UG WORK 合同会社	21
豊田　啓介	noiz	25
西口　尚宏	一般社団法人 Japan Innovation Network	33
橋爪　紳也	大阪府立大学	35